

## 魔法の medicine プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 伊藤陽子 所属: 仙台市立八乙女中学校 記録日: 2021年2月11日  
キーワード: 学習空白 学びの手段 信頼関係 情緒の安定

### 【対象児の情報】

○学年 中学3年生

○障害名 ASD 反抗挑戦性障害/ADHD

#### ○障害と困難の内容

- ・感覚過敏があり、触られる、大声で怒鳴られるなど生活の中で苦痛に感じることがあると、キレて暴れる。
- ・小学校3年生から教室離脱が始まり学習空白が大きい。特性を起因とする課題もあり、学習に向き合うことができない。

### 【活動目的】

#### ○当初のねらい

- ①信頼できる大人(担任など)との関係構築・担任をモデルとして他者との関わり方を身に付ける。
- ②自分の特性に合った学びかたを身に付けることで、学習空白を埋める。
- ③Pepperやアバターなど他者の姿を借りながら、誰かの役に立つ活動に取り組んでみる。

○実施期間 2020年6月~2021年2月

○実施者 伊藤陽子

○実施者と対象児の関係 通級指導担当と支援対象生徒

・研究協力者 ①東條 秀世(担任) / ②齋藤圭一郎(千葉県中学校教諭)

### 【活動内容と対象児の変化】

#### ○対象児の事前の状況

##### 〈生活面〉

- ・昨年度まで通常学級に在籍していたが、学級での不適応状態が著しく、通級指導担当による個別支援を受けていた。今年度から自閉症・情緒障害学級に在籍異動したが、本人の希望で、他の生徒に分からないよう配慮や対応をとることにした。他の特別支援学級の生徒とは交流せず、彼専用の教室を1教室用意されている。
- ・彼が関われる同級生は、対象生徒が所属する部活動の数名だけである。ほとんどの生徒が彼とは距離を置き、関わらないようにしている。
- ・運動能力は高く、部活動では選手として活躍している。
- ・毎日のようにトラブルが続いていたにもかかわらず、遅刻や欠席はほとんどない。両親の協力もあり、時間の管理や身辺自立はできている。

### 〈学習面〉





- ・算数に苦手さを感じている。整数の四則計算は出来るが分数・小数の計算, 図形分野は未定着である。
- ・学年相応の漢字は読めるが, 長文は読めない。読解や心情理解は苦手である。想起して漢字を書くことも苦手である。
- ・習字を習っており, 校内書き初め展で入賞するほどのきれいな字が書ける。しかし, 板書を書き写すことや, たくさんの文字を書くことは嫌がっている。

### 〈その他〉

- ・幼少期の経験が起因となって, 大人に対して不信感を持っている。
- ・「僕は問題児ですから」が出会いの時の言葉

### ○活動の具体的な内容

①信頼できる大人との関係構築・担任をモデルとして他者との関わり方を身に付ける。

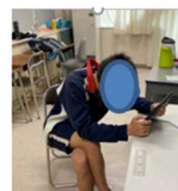
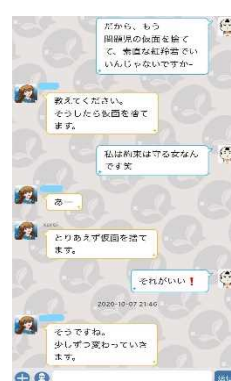
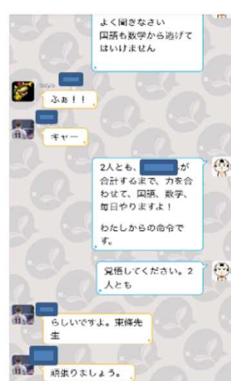
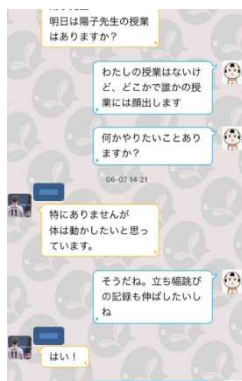
			
カメラ	YouTube	ByTalkforSchool	ZOOM

・大好きなバレーボールの練習の様子を iPadmini で撮影し, 担任や実践者と動画を見ながら談話することで, 人間関係・信頼関係を作っていく。

動画や YouTube を見ながら, サーブやスパイクの研究をしていた。動画の画面は集中して見ることができている。また, スロー撮影など工夫した撮影法を提案するなど, 予想以上に研究熱心であった。



・ByTalkforSchool を使って, 持ち物の確認や困った時に相談して解決する経験を重ねる。



ByTalkforSchool での担任や実践者とのやりとりを楽しんでいた。内容は最初は文字だけの明日の確認にすぎなかったが、次第に自分の趣味の話、写真を共有して休日の出来事の共有、困った時の相談も行うようになった。対面では伝えられない本音を SNS という手段を使うと素直に表現できた。感情表現もスタンプを使うことで表現しやすかったようである。はじめは緊張し、担任や実践者に警戒心を持っていたが、好きな活動を一緒にすることやほめられる経験から徐々に笑顔で話ができるようになった。また、担任が仲介役となって他の教員や同級生とも笑顔で会話できるようになった。

・ZOOMを使った遠隔でのバレーボール指導などを利用し、自分に対して先入観を持っていない大人との良好な関わりの経験をする。



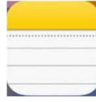



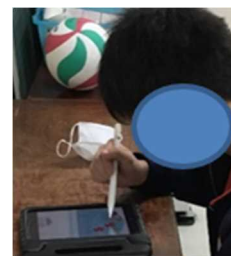
共同研究者の齋藤圭一郎先生と  
ZOOMでバレーボール講習会

初めは緊張していたが、回を重ねるごとに、笑顔で会話できるようになり、積極的に技術面での質問をするようになった。大人との安心した関わりの中で、高校では良好な人間関係を築きたいと言ようになった。

②自分の特性に合った学びかたを身に付けることで、学習空白を埋める。

・書きの困難を補う

			
mazec	SimpleMind	Memo	縦式

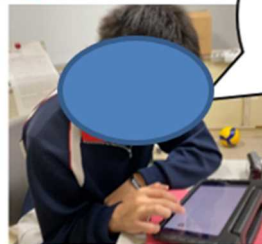


長い文書を書くとき疲れてしまうこと、想起して漢字が書けないという書きの困難を軽減するため、テキスト入力を試すことにした。かな入力、ローマ字入力、ApplePencil を使った mazec 入力、フリック入力を試した結果、フリック入力を使うことにした。必要に応じて、

ApplePencil での mazec 入力も使っている。漢字は予測変換の中から正しいものを選ぶるので、年齢相応の体裁の整った作文を仕上げることができた。年度初めに書く「今年の抱負」の作文は、音声入力を使って「SimpleMind」に頑張りたいことを記載し、それを実践者があらかじめ「Memo」に用意した作文のテンプレートにキーワードとして入力していった。できあがった文章をコピーし「縦式」にペーストし、作文を完成させた。期限には遅れてしまったが、去年は書けなかった「今年の抱負」を提出することができ、通常学級の学級通信に作文を載せてもらうことで、達成感と学級の一員としての自覚が持てた。

### ・palstep を使って学習空白を埋める

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
blackpink	仙台市立/中学校 3		2020/9/1	算数ページ4.わり算	(1) 16、(2) 26				
blackpink	仙台市立/中学校 3		2020/9/1	算数ページ4.わり算	(1) 16、1 6、(2) 26、2 6				
blackpink	仙台市立/中学校 3		2020/9/1	算数ページ4.わり算	(1) 12、(2) 6				
blackpink	仙台市立/中学校 3		2020/9/1	算数ページ4.わり算	(1) 15、1 5、(2) 200、2 0 0				
blackpink	仙台市立/中学校 3		2020/9/1	算数ページ4.わり算	(1) 15、(2) 200				
blackpink	仙台市立/中学校 3		2020/9/1	算数ページ4.わり算	(1) 15、1 5、(2) 200、2 0 0				
blackpink	仙台市立/中学校 3		2020/9/1	算数ページ4.わり算	(1) 13				
blackpink	仙台市立/中学校 3		2020/9/1	算数ページ4.わり算	(1) 1 3、13				
blackpink	仙台市立/中学校 3		2020/9/1	国語ページ 6、ローマ字	方だめし 1 (1) 学習をはじめ				
blackpink	仙台市立/中学校 3		2020/9/1	国語ページ 6、ローマ字	dsure				
blackpink	仙台市立/中学校 3		2020/9/1	国語ページ 6、ローマ字	dfro				
blackpink	仙台市立/中学校 3		2020/9/1	国語ページ 6、ローマ字	dfro				
blackpink	仙台市立/中学校 3		2020/9/1	国語ページ 6、ローマ字	dfro				
blackpink	仙台市立/中学校 3		2020/9/1	国語ページ 6、ローマ字	Sekken				
blackpink	仙台市立/中学校 3		2020/9/1	国語ページ 6、ローマ字	Sekken				
blackpink	仙台市立/中学校 3		2020/9/1	国語ページ 6、ローマ字	San (mDsan)				



先生、  
今日、palstep  
開いたら銀メダル  
ついてました

小学校3年生からの学習空白を効率よく埋めるため、palstep を使って数学・国語の学習をした。1月の入学試験に向け、算数については、分数や小数の計算方法、図形の名称や面積の求め方など、高等学園の学力試験に出る問題を中心に学習し、2学期中間の考査(11月)では、国語と数学のみ試験を受けることに同意した。問題は、他の特別支援学級の生徒と同様、特別支援高等学園の試験問題と同程度の試験であった。結果は、国語も数学も70点台後半の点数を取ることができ、受験に向けて自信を持ち始めた。

### ・アプリを使った学習→一人でも学習できる→継続した学習習慣の形成へ

SUM!	算数勉強 合わせていくつ	書き取り 漢字練習	漢字読み方 検索	ことわざ つくろ!	クレージー フィンガー

#### 〈数学〉

数学では、ゲーム形式や答えを選択肢から選ぶことで嫌がらずに計算練習に取り組む方法を取り入れた。その上で、palstep にチャレンジさせたり、紙ベースでの学習に取り組みせ「できた!」という成功体験を積ませた。

計算では繰り上がりや繰り下がりがあると計算スピードが極端におそくなってしまふ。計算時間の短縮を目指し「SUM!」で10の合成・分解を身に付けさせた。より高い点数めざし、楽しみながら取り組んでいた。計算の時間は開始時よりかなり早くなり、計算ミスも減っている。また、方程式の基礎となる□を使った式は「算数勉強-合わせていくつ」を使って学習した。ほぼ間違わずに計算できるようになったので、中学校の方程式の問題を「ホントに分かる中1数学」で取り組み、全問正解できた。

### 〈国語〉

長い文章を書くことは嫌うが、字はきれいに書けるので漢字練習を毛筆とタブレットの両方で行うことにした。「書き取り漢字練習」を使い4年生の漢字から始めた。「書き取り漢字練習」は分からないときに答えだけでなく、筆順を



教えてくれる「常用漢字筆順辞典」で調べられるので、一人でも学習を進められる。始めて3日後には「4年生の漢字、全部終わりました。全部あたりましたよ。」と笑顔で画面を見せた。入試にことわざが出てくるので、「ことわざつくろ!」で覚えた。間違えてあたらしいことわざを作ってしまった時は、『Aの名言』として教室のホワイトボードに書き、どういう意味なのか担任や実践者に説明する心の余裕も見せている。ことわざは夏休み中の宿題として、「ByTalkforSchool」で一日5問ずつ実践者が出題したが、毎日解答を送ってきた。

### 〈英語〉

授業を受けていないため、アルファベットが未定着である。そのためローマ字入力ができない。進学後はパソコンなどを使った学習も想定されるため、アルファベットの定着とローマ字

入力のためのキーボードの配列を覚えさせたいと考えた。しかし、本人が乗り気ではなかったため、ゲーム性が強い「クレージーフィンガー」というアプリを使うことにした。本人には「スポーツのためのビジョントレーニング」と伝え、負けず嫌い



勝負にこだわる性格もあって、記録更新を狙って熱心に取り組んでいた。次第に「進学後にローマ字入力を早くできるように頑張る」という目標も受け入れ、取り組むようになった。

③Pepper やアバターなど他者の姿を使って、誰かの役に立つ活動に取り組んでみる。

		
<p>ロボブロックス</p>	<p>PhotoSpeak</p>	<p>iMovie</p>

### ・生徒会主催の「校庭草取りボランティア」の参加呼びかけを Pepper を使って行った。

「学校のために頑張ろう」という呼びかけをすることにし、初めはパソコンで挑戦したが、ローマ字入力がむずかしいため、PCではなく iPad のかな入力を使ってプログラミングを行った。Pepper が「学校のために



頑張ろう」と昇降口でしゃべる様子を生徒たちは笑顔で見ていた。プログラミングをした人を公表しようかと提案したところ「やめてくださいよ。」と笑って答えていた。

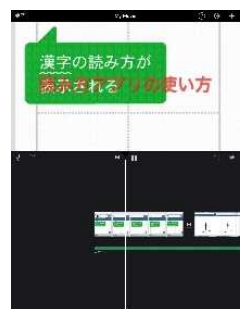
### ・「通級悩み相談室」を開設

「通級悩み相談室」を開設し、何かで困っている人へアドバイスをしようと提案した。「PhotoSpeak」というアプリを使って、マスコットの姿を借りながら、体育の授業で困っている生徒の悩みに真剣に答えていた。はじめは緊張して何度も録画し直したが、徐々にユーモア織り交ぜ、饒舌にアドバイスできるようになった。



### ・後輩たちへ「アプリの使い方」を伝授

自分と同じように iPad を使った学習をする後輩たちのために、「アプリの使い方」の紹介ビデオを作ることにした。「iMovie」の使い方を簡単に説明するとすぐに理解し、動画や音楽、タイトルのフォントなどを工夫し「どうしたら分かりやすいか」と考える優しい一面を見せた。



### ○対象児の事後の変化

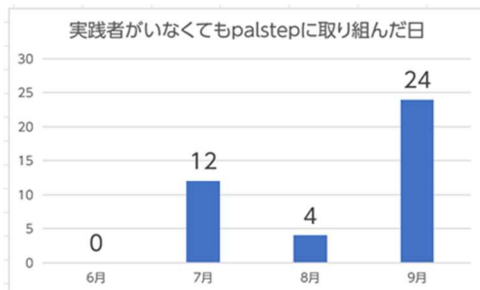
苦手だった分数や小数の計算、割り算などがほぼできるようになった。高等学園の入試過去問代は国語、数学ともに 7 割から 8 割解けるようにもなり、「めんどくさい」と言いながらも、問題集に取り組むようになった。完璧ではないものの、以前に比べ、いやなこと、気にいらなかったことがあっても我慢できるようになってきた。年度初めに作成した「今年の抱負」の作文で書いた『体育祭の学級対抗全員リレー』でのクラスへの貢献を有言実行するため、体育の時間だけでなく、朝や昼のクラス練習にも参加し、クラスメートと一緒に頑張っていた。本番では自分の快走によって 1 位に順位を上げたが、アンカー生徒が転倒して 1 位を逃してしまった。それを見て悔しそうに握りこぶしを握っていたが、一言もその生徒を責めることはなかった。「好きで転ぶやつはいないし、あいつが一番苦しいと思うから。」とクラスメートを思いやる言葉を言えるようになった。

## 【報告者の気づきとエビデンス】

### ○主観的気づき

笑顔で生活することが多くなった。自分を理解し、寄り添ってくれる担任に感謝する言葉を日々口にしていく。また、その先生を仲介者として、校内の先生や生徒と穏やかに関われる時間を増やせるようになった。そのような生活を通して、困った時には相談することを覚え、いやなことがあっても我慢しなければと、自分なりにクールダウンしようとする姿勢も見られはじめた。まだまだ改善しなければならない点はあるが、高等学園では今までの失敗を繰り返さず、学習や部活動、対人関係において頑張りたいという気持ちを持っている。「僕は有言実行するんで。」という彼の言葉を信じたい。

### ○エビデンス(具体的数値など)



2学期(10月)からは、入試を意識し、本人の希望で紙ベースの問題集に移行した

### 高等学園(数学)過去問題の正答率

	1回	2回	3回	4回	5回
3問	9	9	9	9	9
/	/	/	/	/	/
9問中	9	9	9	9	9

### ○その他エピソード

①11月から、高等学園を受験する他の生徒3名と一緒に作業領域試験の受験対策を行った。1回目はトラブルを心配し座席位置の配慮や複数教員での見守りなどの多くの配慮のもとで実施したが、予想に反し、穏やかに笑顔で1時間を過ごせた。それ以降、給食を一緒に食べる機会を持ったり、一緒に特別支援学級の体育に参加するようになった。できない生徒に対して励ましの言葉をかけるなど、本人の持っている本来のやさしさを見せるようになった。「僕は本当は友だちと勉強したかったのかもしれませんが。」という生徒の言葉が印象的であった。「できる」「分かる」学びの手段を持たせ、ともに学ぶ環境を整えることは重要であると感じた。特別支援学級の後輩は対象生徒に憧れを抱くようになった。

②倍率が高く、難しいと思っていた第1志望の特別支援高等学園に合格した。陸上部に入部し、全国大会出場、同級生や先生と平和で充実した学校生活を送ることを楽しみにしている。

③休み時間などに、今までiPadに記録していた写真や動画をまとめ、「自分の成長記録」をkeynoteでこっそり作成していた。そこには担任に対する感謝の気持ちもたくさん記載されている。「恥ずかしいから見せない」と言っているが、担任と一緒にこれを視聴し、笑顔で卒業式を迎えてほしい。

